

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

53号

2014年10月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内
〒043-2222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

国鉄闘争の勝利へ 11・2に大結集を！

スト貫徹！ 動労千



「解雇撤回・原職復帰」の大勝利 東京西部ユニオン鈴木コン分会

東京高裁において9月30日、東京西部ユニオン鈴木コンクリート工業分会は、原則を二ミリも譲ることなく「①解雇撤回・原職復帰、②実質的無期雇用、③不当労働行為をしない」を条件にした完全勝利和解を鈴木資本に強制しました。

鈴木コン分会の仲間は「この勝利は、分会、ユニオンをはじめとした仲間の団結、全国の共闘の団結、何より職場の2名の組合員が苦しい中でも3年間ともがなばって闘ったことで勝ち取られた」と報告。そして「ただちに故・田口組合員の解雇撤回・名誉回復、職場での組合員の拡大、首都圏における生コン産業界労働者の組織化に打って出る」と決意しています。

この勝利を全国の労働者に伝え、11・2労働者集会の大結集をかちとろう。

■11月15日(土)「勝利報告集会」(18時30分、豊島区民センター)。11月17日から職場復帰。

全国各地で国鉄集会が開催されています。国鉄闘争と解雇撤回10万署名の取り組みを結集軸に、地域・職場から労働者・労働組合の結集ががちとられています。動労千葉は10・1ストで組織拡大へ新たな一歩を踏み出しました。東京西部ユニオン鈴木コン分会が職場復帰を実現しました。署名10万筆の達成と11・2労働者集会の成功へ組織化を！

全国各地で国鉄集会

岡山

10月5日、初参加者も参加し岡山労働者集会を開催した。基調提起は、岡山大学医学部職員組合の矢田さんが行った。「7・1集団的自衛権閣議決定を弾劾し、労働組合を甦らせて、ストで闘おう」「国鉄闘争を軸に階級的労働運動の復権で勝負に出よう」「11・2労働者集会の1万人結集をかちとろう」との方針を鮮明に出した。

続いて動労西日本の山田書記長が特別報告。「9・11郡山闘争と動労千葉の10・1ストで外注化阻止闘争が爆発している。JRの職場でも大流動が始まっている。自分たちの職場闘争に確信を持って、11月労働者集会へ組織しよう」と訴えた。集会の後半は、各産別から決意表明だ。

自治労倉敷の百本委員長は、「保育園の民営化阻止を闘っている。『自民党や公明党と一緒に闘って首切り・非正規化をやめるのか』という組合員の意見に對し、岡山県本部が『毒を食らわば皿まで』と言った。組合員



が解雇されて路頭に迷っても知らんといふふざけた本部を打倒する」と戦闘宣言を發した。

合同労組岡山マスカットユニオンの清水委員長は、「07年に青年の解雇撤回闘争から組合を立ち上げて団結を維持してきた。組合員のほとんどが民間労働者で日曜日忙しい仲間が多い。しかし、11・2集会には組合から青年を中心に大勢で参加する」と展望を語った。

岡山大学医学部の仲間が初めて発言した。「大学当局が持ち株会社化しようとしている」と弾劾し、「6月の組合役員選挙闘争で体制内を追いつめた。職場の若い世代の人たちからじっくり話を聞き、非正規職撤廃に向け、動労千葉物販や署名を取り組む」と決意を新たにされた。

全通OBの仲間は、「JP労働者

組中央は、当局が株式上場することに絶対許さないではなく、さらなる生産性向上を言うてい」と弾劾し、「現場から闘う団結を作る。10のうちの1でもいいから現場に階級的労働運動が入ってほしいという心づもりでしっかりやっっていく」と発言した。

まとめと団結カンパローを山田書記長が行い、11・2労働者集会の成功に向け、労働組合を組織化していくことを誓って閉会した。

千葉

台風18号接近で激しい豪雨の中、「安倍打倒！ ちば労働者集会」が開催され、千葉市美術館講堂に130人が結集した。

（裏面に続く）

解雇撤回・JR復帰を求める最高裁署名
7万2404筆(14年10月15日現在)

プロパーの仲間を守れ！

動労千葉10・1スト貫徹

動労千葉は10月1日、幕張、京葉、習志野など千葉全域の検修職場でストを貫徹しました。車輪転削業務ではこの間、指



切断などの労災事故が頻発しています。にもかかわらずベテランを排除し、外注先のプロパー社員だけで転削を行わせようとしています。

JRは構内運転について「総合的技術力の養成のためには4年ほどの経験が必要」と説明していますがCTSでは、昨年入社した労働者に限定免許を与えて構内運転をさせようとしています。

銚子の検査派出では、床下点検中に列車のブレーキ

が緩み、労働者がひき殺される寸前でした。外注化されていなければ銚子運転区の業務です。外注化で100キロ以上離れた幕張から指示が出るようになったのです。

JRと外注先の労働者、出向者とJRに残った者、エルターと現役世代、乗務員と検修労働者……外注化は労働者間に強烈な分断と対立をもたらし、安全を崩壊させています。

一切の根源は外注化を進めるJR東日本にあります。ここに怒りを集中し、すべての労働者が垣根を超えて団結することが必要です。動労千葉は、JRと下請けの分断を超えストを闘い抜きました。

保養などの県内で地道に粘り強く運動を行っている人たちが一同に集まったのは非常に重要だ」と集会の意義を語り、社会に充満している労働者民衆のすべての怒りを集め、11・2集会の大結集を、と訴えた。

続いて地元千葉の国鉄闘争全国運動呼びかけ人として金元重さん、動労千葉争議団から中村



仁さんが、1047名解雇撤回の決意と最高裁10万筆署名の達成を訴えた。 動労千葉を支援する会が県内労組オルグなどの報告を行い、「教育現場での危機感はずい。多くの組合で賛同を得ている。千葉には動労千葉という手本になる組合がある。地の利をいあかしていききたい」と手応えを語った。

「給料日に聞こえるのはため息ばかり。動労千葉がCTSの労働条件で動いている姿を見て加入した。がんばっていききたい」 「仲間を増やして職場の現実を変えていききたい」 それぞれが発言し会場から大きな拍手を受けた。

「給料日に聞こえるのはため息ばかり。動労千葉がCTSの労働条件で動いている姿を見て加入した。がんばっていききたい」 「仲間を増やして職場の現実を変えていききたい」 それぞれが発言し会場から大きな拍手を受けた。

務局長の二本柳美さんの基調報告に続いて、特別アピールを動労千葉の田中委員長が行いました。田中委員長は、JR本体と外注先の検修部門41名がストに立った10・1の闘いを通して、民営化・非正規化は阻止できることを鮮明にしました。



り組みを報告しました。 青年の演奏で「ソリダリティ」の合唱、闘う国労原告団の成田昭雄さんの決意に続き、呼びかけ人の伊藤晃さんが「10万筆を達成し、11・2にまた会いましょう」とまとめを結びました。

よつ 10・3東部地域集会」が墨田産業会館で開催され、60人が参加しました。 集会前に9・11郡山闘争のビデオが上映された。「東部の会」共同代表の橋本武明さんが主催者あいさつを行い、「10万筆署名が7万を超えました。そのうちの1割の7200筆が東部の会が集めた署名です。しかし10万筆には3万筆足りません。11・2集会までに貫徹しましょう」と訴えた。

東京北部

労働者の団結で安倍をたおそう10・3東京北部集会が81人の参加で成功しました。今回の集会は画期的な呼びかけ陣形を形成して実現されました。

鈴コン闘争支援共闘呼びかけ人の東京一般労組東京音楽大学分会の高橋浩さんは「戦争」(原巻) (外注化・非正規化)と安倍打倒の一点でこの団体とでもつながれるはず。東京北部において大きな団結を作りだそう」とあいさつ。

東京武蔵野病院・精研労組の諸水委員長は基調提起で「7・1情勢によって社会は全面的に転換した。全国の闘う労働者・動労大衆が根底的な闘う団結を求めている。これまでの組織の違いや産別の壁を打ち破り、安倍を本場に打倒できる闘う運動の



組合の原則的な闘いによって広範な労働者住民を獲得する現実性と展望が示されました。 動労千葉を支援する会・東京北部の別所代表は、動労千葉物販の取り組みを強化し、闘う労働運動を地域につくり出そうと訴えました。

自治体労働者は、「業務の委託化・外注化には絶対反対。動労千葉の実践に学んで団結を作っていく。郵政の仲間は、酷暑の配達業務のなか熱射病で倒れたことについて、労災申請を認めさせたことを報告し、「こうした闘いを職場から作っていききたい」と表明しました。

10月11日、職場に闘う組合を10・11新潟労働者集会を初参加の3労組を含め65人の結集でかちとり、国鉄闘争全国運動・新潟の発足を宣言しました。

新潟の坂場信雄代表があいさつ。最高裁署名が7千筆に迫る中、県下の労組の中に動労千葉への共感が広がったことや7・1集闘の自衛権行使の閣議決定という情勢を受けて、動労千葉のよう労働組合をつくる情勢が主に客にわたり熟しているとして全労連・新潟の結成に至る経緯を報告しました。

いよいよ田中委員長の講演です。田中委員長はまず「国鉄分割・民営化によって労働運動が大後退し、今日の我慢のならば社会となり、怒りの声があふれているのに対抗する力に結集できないのは闘う労働組合がないからだ」と強調。「労働組合

をやらせて、やりたい放題の資本に対抗しよう」と訴えました。そして、この間の解雇撤回闘争、外注化阻止の地平を勝利的に確認し、5・2ストに引き続き10・1ストを打ち抜き、資本の分断に反撃し、組織を拡大したことを明らかにしました。

神奈川

10月4日、「安倍打倒！ 戦争と民営化、非正規化と対決する10・4神奈川国鉄集会」は、これまでの集会を越えて131人が集まりました。

闘いの報告と決意表明は、組合権力戦を闘う三浦半島教組の仲間を先頭に、各地区の動労千葉を支援する会、地域で闘う労組、合同労組の仲間、反原発・保養に取り組んでいる仲間が取

ら連帯あいさつを受け、さらに農民会議世話人からのメッセージが紹介され、動労千葉との連帯・共闘が強調されました。

10月3日、国鉄闘争全国運動・東京東部の会主催の「国鉄解雇撤回 外注化・非正規化を止め

動労千葉新小岩地域の佐藤正和さんは「10・1には外注化反対、65歳まで働ける職場を掲げてストで闘いました。定期大会では緊張した場面もありましたが闘う労働運動をやらせよう」と議論をした。動労千葉結成35年に節目の大会になりました」と述べた。

新潟

10月11日、職場に闘う組合を10・11新潟労働者集会を初参加の3労組を含め65人の結集でかちとり、国鉄闘争全国運動・新潟の発足を宣言しました。

新潟の坂場信雄代表があいさつ。最高裁署名が7千筆に迫る中、県下の労組の中に動労千葉への共感が広がったことや7・1集闘の自衛権行使の閣議決定という情勢を受けて、動労千葉のよう労働組合をつくる情勢が主に客にわたり熟しているとして全労連・新潟の結成に至る経緯を報告しました。

いよいよ田中委員長の講演です。田中委員長はまず「国鉄分割・民営化によって労働運動が大後退し、今日の我慢のならば社会となり、怒りの声があふれているのに対抗する力に結集できないのは闘う労働組合がないからだ」と強調。「労働組合

をやらせて、やりたい放題の資本に対抗しよう」と訴えました。そして、この間の解雇撤回闘争、外注化阻止の地平を勝利的に確認し、5・2ストに引き続き10・1ストを打ち抜き、資本の分断に反撃し、組織を拡大したことを明らかにしました。

続いて鈴コン分会の内尾分会長が完全勝利和解・原職復帰の報告を行った。地域の仲間からは職場の外注化・非正規化攻撃の生々しい報告と決意がなされた。初めて署名をお願いした学校の組合役員が「勉強のために」と2人で集会に参加し、11・2に向けた手がかりをつかむ集会となった。